



能登やさしいこめづくり情報

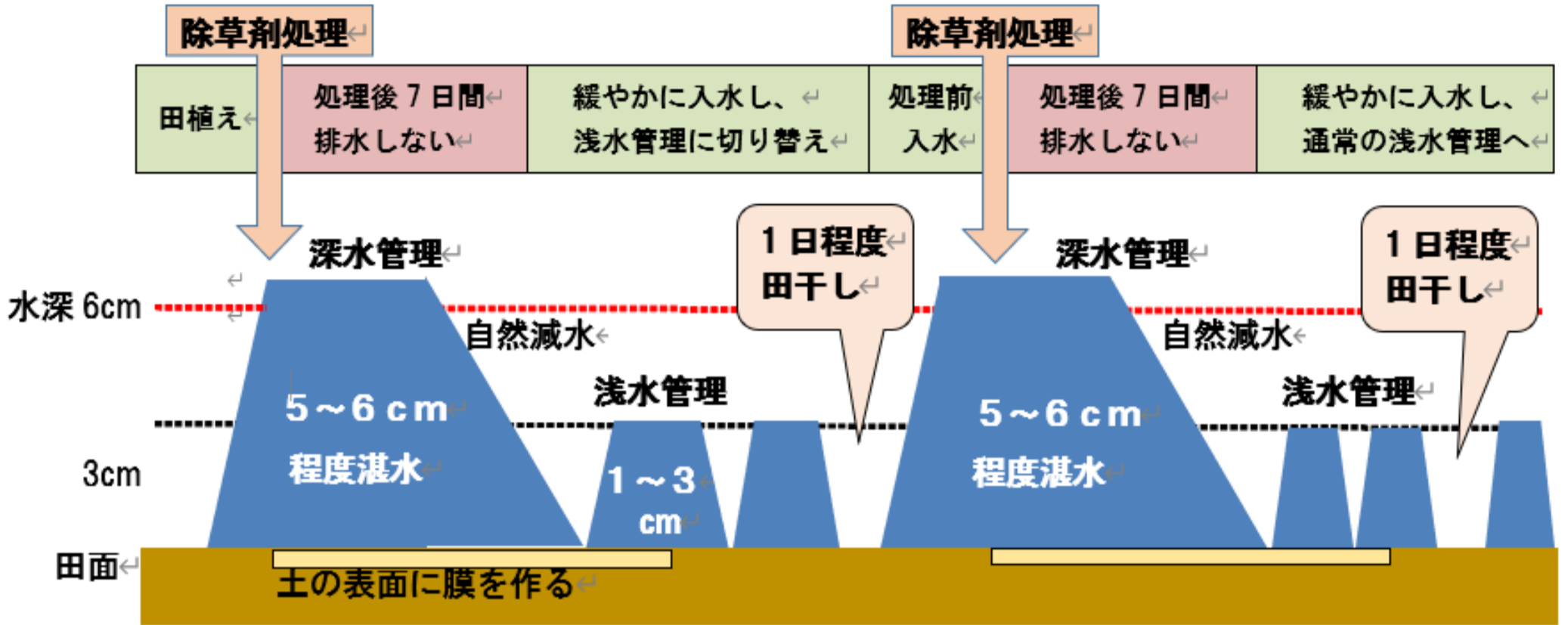
令和7年5月
能登米振興協議会
能登米生産者協議会
能登南部営農推進協議会
J A は く い

田植え後～中干し編

浅水管理・適期中干しで高温に負けない稲づくりを！

1 田植え後の水管理

生育初期の水管理は、収量・品質に大きく影響します



(1) 田植え～5日後(活着期) : 深水管理(水深5～6cm)

- ・ 活着前は寒さや強風に弱いので、深水管理で苗を守りましょう。
- ・ 通常、遅くとも田植え後5日程度で活着します。
- ・ 活着後であっても、除草剤散布後7日間は深水管理(水深5～6cm)としてください。

(2) 活着後(※除草剤散布後7日間は除く) : 浅水管理(水深1～3cm)

- ・ 活着後は基本的に浅水管理を行い、水温や地温を上がりやすくし、早期に分げつを発生させましょう。

○ 早い時期に発生する分げつ⇒「有効分げつ」となりやすい。

× 遅い時期に発生する分げつ⇒「無効分げつ」「弱小分げつ」となりやすい。

(※「中干し」欄に後述)

(3) 田干し

- ・ 中干しまでに田干しを2～3回行い、ガス抜きをし、根の張りをよくしましょう。
- ・ ガスが多く発生する圃場では、根が傷み養分を十分に吸収できません。
- ・ 有機物を施用した圃場や湿田は、5月中旬以降地温の上昇に伴い、有機物の分解が進みガスが発生しやすくなりますので、特に注意が必要です。



浅水管理は下位分げつが発生



深水管理は分げつ発生を抑制

図:分げつ期の浅水管理と深水管理の生育の違い

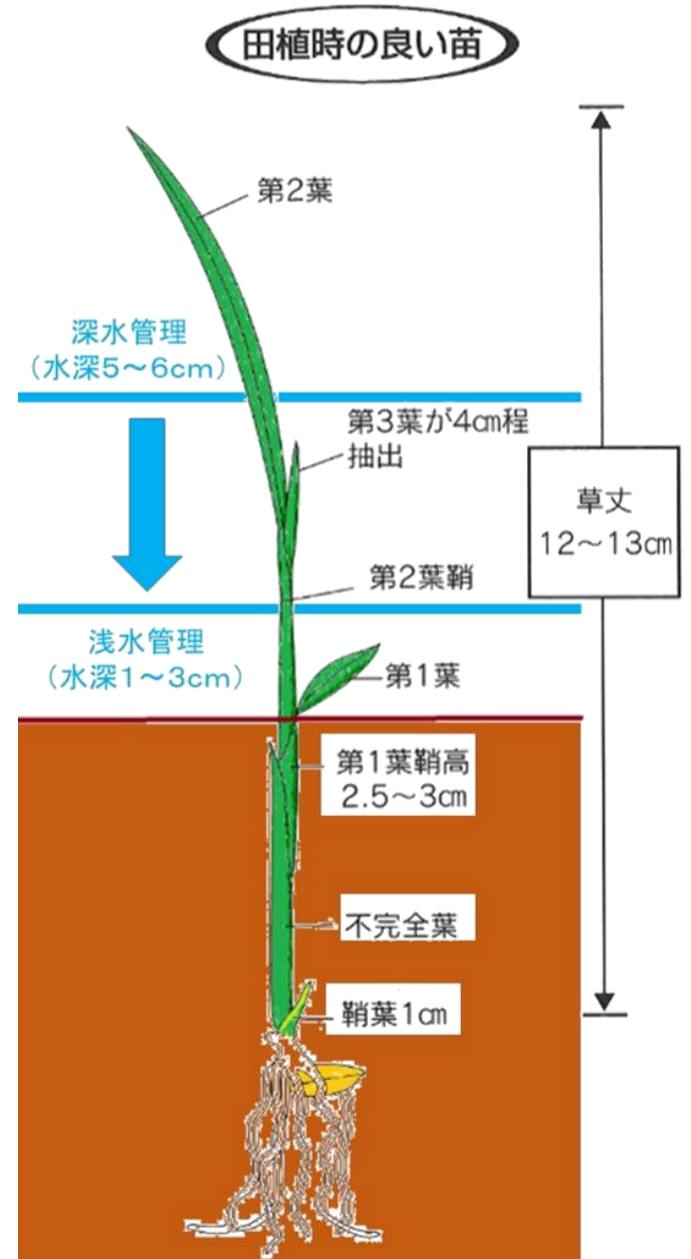


図: 田植え後の苗と水深

2 溝切り作業など

(1) 溝切り作業

溝切りの効果

- ◇ 迅速な通排水ができ、中干しの効果が高まります。
- ◇ 登熟期に迅速なかん水ができ、飽水管理を手助けします。

- ・ 溝切りは、額縁及び10条に1本の割合で実施しましょう。
- ・ 溝と溝、溝と排水口(水尻口)は、しっかりと連結しましょう。
- ・ 田面をある程度固く(落水2~3日後)してから溝を切り、6月中旬頃に同じところを再度切り直しましょう。



乗用溝切機を使用した溝切り

(2) 補植苗の処分

- ・ 補植用の苗は風通しが悪いことから、いもち病などの病原菌が繁殖するのに絶好の環境になってしまいます。
- ・ 補植作業が終了したら、忘れず、速やかに補植苗を処分しましょう。



いもち病によりずり込む圃場

3 中干し適期開始について

- ・ 『中干し』は米の品質や収量を左右する最も重要な管理作業の1つです。
- ・ 中干し開始の遅れ・未実施は、未熟粒の原因となる「弱小分げつ」や穂にならない「無効分げつ」を増加させます。また、登熟期間の養水分の吸収に必要な根の発達も不十分となり、結果的に未熟粒やくず米の発生を助長し、品質・収量の低下を招きます。
- ・ 『中干し』の重要性を再認識し、能登産米のさらなる品質向上を目指しましょう！！

中干しの効果

- ◇ 無駄な分げつの発生を抑制し、過繁茂を防ぎます。
- ◇ 秋の実りに働く根が発達し、根の活力が高まります。
- ◇ 過剰な窒素の取り込みを抑制し、倒伏を防ぎます。
- ◇ 田面が固くなり、秋にコンバインで収穫しやすくなります。



乳白粒(白未熟粒)やくず米の発生減少



乳白粒(白未熟粒)

◆中干しの実施

田植え後1か月で中干し開始！

- ・ 田植え時期や初期の水管理により、分げつの発生に差が生じます。そのため、圃場ごとに中干し開始適期を確実に把握し、遅れないように必ず実施してください。
- ・ 中干し開始時期の目安



品種	開始時期		終了時期	開始時期判断の注意点
	1株当たり茎数	平年		
早生品種	16本	6/7頃	6/30頃	①田植え後1か月、または、 ②左記の茎数に達した時期の いずれか早い方にあわせて実施し、額縁や滞水する箇所には溝切りを実施してください
コシヒカリ	14本	6/5頃	7/10頃	
ひやくまん穀	14本	6/5頃	7/20頃	
(根拠)	目標穂数[<small>コシ21本 早生24本</small>]の70%時点		幼穂形成期	



【中干し開始の目安の株】

茎数が14本の株。上記写真を参考に、ほ場ごとに中干し開始時期を決めてください。



【中干しの遅れ】

中干しの時期が遅れると過繁茂状態になります。



【中干し実施なし】

長靴が沈んでしまいます。稲も地面が見えない程の過繁茂状態です。